



## 横浜で東アジアに出会う

任 仁宰  
(漢陽大学校)



皆様、いかがお過ごしでしょうか。本年1月13日から2月2日までの3週間、神奈川大学非文字資料研究センター訪問研究員として研究に携わった、漢陽大学校歴史学科博士課程修了の任仁宰と申します。2017年にも一度、訪問研究員プログラムに参加し、再び訪問する機会を得ることができました。二度にわたって貴重な機会をくださったセンター長をはじめ、諸先生方に深く感謝申し上げます。

前回の訪問と同じく、学術提携機関である漢陽大学校東アジア文化研究所の推薦をいただき、センターを訪問することができました。3年ぶりに横浜市、神奈川大学を訪れて嬉しさでいっぱいとなり、3年前の経験が大いに役立ち、生活にもすぐに慣れました。もちろん、センターの成田さんをはじめ、チューターとしてサポートしてくださった郭夢垚さんには、大変助けられました。おかげで無事に研究日程を終えることができました。

私は今回の訪問研究のテーマとして「大韓帝国期の私立学校の設立と東アジアの知識交流」を選び、関連資料の調査および研究を計画しました。今回の訪問中に調査したいと考えていた資料は、大きく二つのテーマから構成されています。第一に梁啓超の社会進化論に関する資料および論文、第二に文明書局に代表される中国出版業者が発行した開港期における各種教科書です。

計画に沿って国立国会図書館、東京大学附属図書館などを訪問し、さまざまな資料を確認することができました。まず、国立国会図書館では梁啓超に関する多くの研究成果を確認することができました。特に、梁

啓超の社会進化論と新民論についての最新研究に触れ、研究をより深めることができました。東京大学附属図書館では、文明書局によって刊行された教科書を確認することができました。これは、開港期の東アジアにおいて教科書の流通と翻訳などを通じて行われていた知的交流の流れを確認することのできる、貴重な作業となりました。博士論文に必要な内容を補完するに足る多くの資料を得ることができ、個人的に大変満足しております。

また、研究テーマとは直接的な関連はないのですが、前回訪れることのできなかつた横浜中華街とフェリス女学院を訪問できました。横浜中華街は、日本で中国の雰囲気を感じることができるという点で印象的でした。韓国にも私の住む仁川に中華街があります。考えてみると、仁川と横浜には大変よく似た特徴があるように思います。中華街は開港後の東アジアで多彩な交流が行われたことが、もう一つの重要な特徴だといえるでしょう。

フェリス女学院は、前回の訪問研究時に日本のキリスト教系学校を調査した際、訪問できなかった場所です。今回は時間を作って訪問いたしました。フェリス女学院は1870年、アメリカ改革派教会から派遣された宣教師メアリー・E. キダーによって設立された学校です。同校はキリスト教の精神を基礎とした、日本で最初の女性教育機関であるという点において意味があります。校舎は予想していたほど広くありませんでしたが、最初の女性教育機関という自負心が感じられる雰囲気があり、学校周辺の街並みはとても趣があり美しい印象でした。

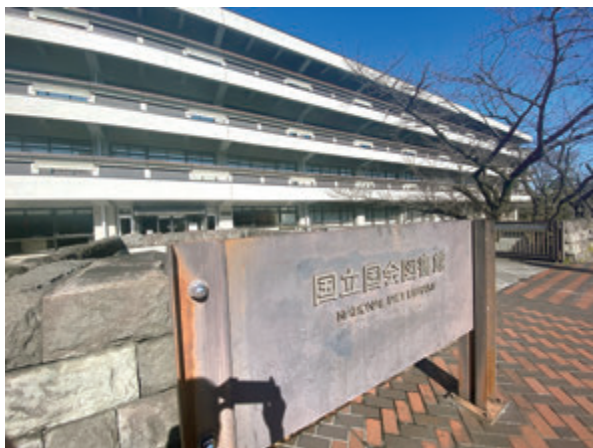


写真1 国立国会図書館



写真2 東京大学附属図書館



写真3 中華街

訪問の最後には、指導をいただいた孫安石先生と学生の皆さんをはじめ諸先生方を前に、それまでの研究成果をもとに発表をいたしました。恥ずかしいことですが、いまだ日本語が拙く、スムーズな発表とはいえませんでした。それでも最後まで聞いていただき、多くの質問をくださった皆様に感謝しております。



写真4 フェリス女学院大学

今回の訪問研究中に一気に起こった新型コロナウイルス感染症の影響により、訪問できなくなった場所も多く、残念に思っております。しかし、博士論文の準備にむけて多くの知識とアイデアを得て帰国することができたことで、大変有意義な時間であったと思っています。この訪問研究員プログラムは韓国で研究をしている博士課程の学生たちにとって、大きなプラスであり気づきを与えてくれるプログラムであると改めて感じています。このような訪問交流が今後も継続され、日本と韓国の広く深い学術交流が行われる場となつてほしいと願っています。どうもありがとうございました。